



新着本案内7月号

愛知みずほ大学瑞穂高等学校
瀬木学園図書館
令和5年7月5日

○ネットリテラシーを高めよう!

『GIGAスクール時代のネットリテラシー 1〜3』遠藤美季監修 (007.3/エ/1〜3)

『イラスト版10分で身につくネット・スマホの使い方』竹内和雄編著 (007.3/タ)



『15歳の壁 乗り越えた先に見える君の未来』和田秀樹著 (159.7/ワ)

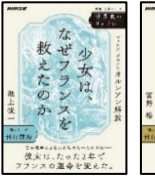


「みんなと同じにしなきゃいけない?」「親に反抗してもいいの?」など、子ども時代に抱えるモヤモヤや悩みの対処方法を、精神科医がQ&A形式で答えます。

○『NHK 世界史のリテラシー』シリーズ

『少女は、なぜフランスを救えたのか』池上俊一著 (235.04/イ)

『「ロシア」は、いかにして生まれたか』宮野裕著 (238.04/ミ)



歴史的な事件を、「事件の全容」「歴史・宗教的背景」「同時代へのインパクト」「後世に与えた影響」の4章で解説しています。

『生きるために必要な「法律」のはなし』

木村真実ほか監修 (320/キ)



大人になる前に知っておきたい法律の知識を、イラストなどを交えて弁護士がわかりやすく解説しています。トラブルに巻き込まれたときに、役に立つ一冊です。

『じつは裁判所ってこんな所なんです! 1・2』

中村圭一著 (327.12/ナ/1・2)



裁判当日でも「判決文が書けていない」裁判官など、裁判所で20年間、裁判所書記官として勤務した著者が、裁判所生活で見聞きしたことを、赤裸々に綴っています。

『プランクトンの世界』

エリック・ホイト著/野口正雄訳 (468.6/ホ)



プランクトンのクローズアップ写真と海洋生物学者の解説から、プランクトンの生態と魅力に迫ります。

○『日本の川』シリーズ

『西日本編』北中康文著 (517.21/キ)

『東日本編』北中康文著 (517.21/キ)



源流から下流にかけて、川がつくり出す渓谷や滝、ダムなどの景観を収録した、川の地形と地質を楽しむための図鑑です。

『テーマで探究世界の食・農林漁業・環境 1〜3』池上甲一、斎藤博嗣編著 (610/セ/1〜3)



『最後の一年 緊急事態宣言-学生アスリートたちの闘い』毎日新聞運動部著 (780.21/マ)



パンデミックによって大会中止に追い込まれた選手たちの苦悩、無念、失意の中で懸命に歩み続ける力強い姿を追い、その胸中に迫ります。

○絵を描こう!

『最高の建物と街を描く技術』(525.18/サ)

『動物をリアルに描く』

ミシェル・ローリセラ著 (725/ロ)

『デジタルイラストの「線画」描き方事典』

レミック編著 (726.5/レ)



○外国語で推し活したい人に!

『SNSで学ぶ推し活はかどる中国語』

はちこ著 (824/ハ)

『推し活韓国語』柳志英ほか著 (829.17/リ)



SNSやオタク同士の会話で使われている外国語の表現を、楽しく学ぶことができます。

○定期テスト・大学入試で使える本

・『MY BEST よくわかる』シリーズ

『高校世界史探究』鶴間和幸監修 (209/ツ)

『高校日本史探究』土屋徹監修 (210/ツ)

『高校物理基礎+物理』右近修治ほか著 (420/ウ)

『高校化学基礎+化学』村上眞一著 (430/ム)

『高校生物基礎+生物』赤坂甲治監修 (460/ア)

・『大学入試KOKOKARA DRILL SERIES』

『数学Iドリル』小倉悠司著 (410/オ)

『数学Aドリル』小倉悠司著 (410/オ)

『現代文ドリル』柳生好之著 (810/ヤ)

『古典文法ドリル』岡本梨奈著 (815/オ)

『英語リスニングドリル』高山のぞみ著 (831.1/タ)

『英文法ドリル』土岐田健太著 (835/ト)

・『定期テストを乗り切る』シリーズ

『高校数学Iの超きほん』(410/テ)

『高校数学IIの超きほん』(410/テ)

『高校数学Aの超きほん』(410/テ)



▽▲▽ 文学 ▼▲▽

『句集 一人十色』

梅沢富美男著/夏井いつき監修 (911.36/ウ)



「プレバト!!」の人気企画「俳句査定」において、梅沢富美男永世名人が「傑作50句」を達成!番組内で句集発売を目指す企画が発表されてから約3年、待望の句集です。

『27000冊ガーデン』大崎梢著 (913.6/オオ)



学校司書・星川駒子は、書店員・針谷敬斗と共に、生徒が巻き込まれた事件の解決に一役買う。学校図書館を舞台にすべての本好きに贈る、心あたたまるミステリー。

『わたしはあなたの涙になりたい』

四季大雅 (913.6/シキ)



天才ピアニスト・五十嵐に三枝は惹かれていく。しかし、彼女がイタリアへ留学したことで、自分との圧倒的な差を痛感し、小説を書き始める。

『世界でいちばん透きとおった物語』

杉井光著 (913.6/スギ)



大御所ミステリ作家・宮内彰吾の庶子である僕は、父が最後に書いていたらしい『世界でいちばん透きとおった物語』を探しはじめるが...

『幻想と怪奇ショートショート・カーニヴァル』

『幻想と怪奇』編集室編 (913.68/ゲン)



23人の作家が、海外の名作や日本の文豪、コミック、音楽などを題材に書き下ろした短い“幻想と怪奇”の物語を収録しています。

『いとエモし。超訳日本の美しい文学』

koto著 (918/コト)



枕草子、万葉集、古今和歌集、徒然草などに綴られた言葉たちを、“エモ訳”した上で、超美麗なイラストによって視覚化した新感覚エッセイです。

『嘘つきのための辞書』エリー・ウィリアムズ著/三辺律子訳 (933.7/ウイ)



19世紀のロンドン。辞書編纂者ウインズワースは、未完成の辞書に架空の項目を挿入することで日々の憂いを晴らしている。一方、現代の同社では、インターンが辞書に紛れ込んだ嘘を取り除く仕事と格闘することに。

